



2011

キッツグループ

環境報告ダイジェスト

KITZ



代表取締役社長
堀田 康之

リスクの予防とコストの低減 の両立を図り、 グループを挙げて環境経営 を推進します

このたびの東日本大震災は、東北地方から関東地方にかけての広い地域で甚大なる被害をもたらしました。被災された多くの皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の皆様の一日も早い復興をお祈り申し上げます。キッツは流体制御機器メーカーとして、上下水道や給湯、空調などのライフラインから、石油やLNGなどのプラントのプロセスラインまで多様な分野に、主力商品であるバルブを提供してまいりました。グループを挙げて、被災地及び日本の復興に尽力するとともに、お客様に対する商品やサービスの継続的な提供こそが最大の使命と考えております。

キッツグループは、2010年5月に発表した長期経営計画「KITZ Global Vision 2020」において、「真のグローバル企業への進化」というコンセプトを掲げております。この実現に向け、「グループを挙げた環境経営の推進」を経営基盤強化の一つとして位置づけ、これをもとに「環境マネジメント体制の強化」「環境負荷の低減」「環境関連法規制への対応」の3つの目標を設定しております。

まず、「環境マネジメント体制の強化」においては、国内の全製造拠点で完了しているISO14001認証取得を海外拠点にも広げていく計画を立てております。2010年度は、新たに海外3拠点でISO14001認証を取得しました。早期に海外の全製造拠点の取得を果たし、環境管理体制の構築を進め、真のグローバルな環境対応企業を目指してまいります。

次に、「環境負荷の低減」においては、事業活動に投入される「エネルギー」「水資源」、事業活動によって排出される「CO₂」「廃棄物」「化学物質」の削減を目標項目に設定しております。投入される「エネルギー」や「水資源」は、事業の拡大において必要不可欠であります。限りある資源の効率的な活用によってこれらの低減を目指してまいります。一方、排出される

「CO₂」「廃棄物」「化学物質」は、徹底したムダの排除による総量と原単位の両面から環境負荷低減に取り組みます。

3つ目の「環境関連法規制への対応」においては、日本国内はもとより、欧州、アジア、米国など世界的に規制が厳しくなる環境問題に対し、各種環境法規制の遵守にとどまらず、事業活動に影響を及ぼす環境に関するあらゆるリスクを排除していく活動に取り組めます。また、お客様のニーズを踏まえ、環境規制を見据えた環境配慮商品の開発を進め、キッツグループの持続的な成長を果たしてまいります。

こうした3つの目標は、「リスクの予防とコストの低減の両立」をベースに達成したいと考えております。ここでいう「両立」とは、積極的な環境活動に取り組むことで土壌汚染などを未然に防ぎ、将来発生しうる費用を抑える、また事業活動で排出される廃棄物を徹底的に削減するなどの環境活動を推進した結果、コストの削減につながり、これにより広く社会に還元できるものと考えます。

「リスクの予防とコストの低減の両立」を果たすためには、「管理体制の強化」「活動の効率化」「環境負荷物質の低減」を柱とした活動をグループ全体で共有することが欠かせません。トップから従業員までが一丸となって環境活動に取り組んでまいります。

これからもキッツグループは、お客様、近隣住民の皆様、株主様や従業員などあらゆるステークホルダーの皆様に対し、企業としての説明責任を果たすとともに、皆様にグループの環境活動へのご理解を深めていただき、忌憚ないご意見やご感想をお聞かせいただきたいと考えております。これからも皆様との双方向コミュニケーションを図りながら、ご期待にお応えできる企業を目指してまいります。



キッツグループ 環境理念

キッツグループは、環境に配慮した商品・サービスの提供と事業活動の推進により、社会から信頼される企業を目指します。

キッツグループ 環境行動方針

環境を経営の重要な視点として意識し、一人ひとりの社員が次の施策に積極的に取り組みます。

1. 環境に配慮した商品・サービスの開発と提供
2. 資源の有効活用
3. 廃棄物の削減と再使用・再利用の推進
4. 環境汚染の防止・予防

株式会社キッツ 環境経営方針

株式会社キッツは、キッツグループの環境理念を遵守することにより、社会から信頼される企業を目指します。

1. 開発・設計段階から生産・使用・廃棄に至るまで製品の全生涯に亘り環境に配慮した製品及びサービスの創出に努める。
2. 限りある資源の効率的な活用、再利用、再資源化のシステムを継続的に改善し、環境負荷の低減に努める。
3. 法の遵守はもとより、環境視点での自主基準を設定し、より高いレベルでの環境保全に努める。

長期経営計画におけるグループ環境目標

① 環境マネジメント体制の強化

海外拠点の ISO14001 認証取得及び環境実績管理

② 環境負荷の低減

目標設定項目

● エネルギー消費量

● 水使用量

● CO₂ 排出量

● PRTR 排出量

● 廃棄物排出量

● 廃棄物最終処分量

③ 環境関連法規制への対応

目標達成に向けた環境経営の考え方と取り組み

経営基盤強化
(グループ環境経営)

リスクの予防

コストの低減

両立

管理体制の強化

- 仕組みづくり
- 人材育成
- 見える化

活動の効率化

- グループ活動
- システムの活用

環境負荷物質の低減

- 温暖化対策
- 共通課題(廃棄物・水資源など)
- 近隣への配慮
- 将来リスクへの対応

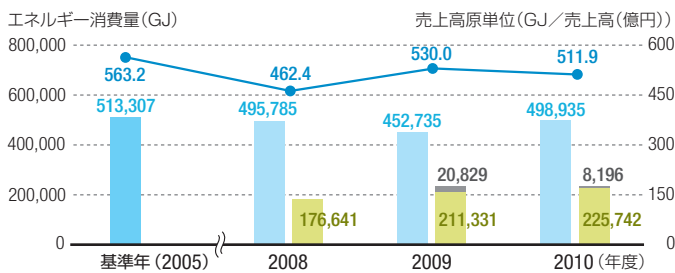


中期経営計画において「グループ環境経営の推進」を掲げ、環境活動を進めています。

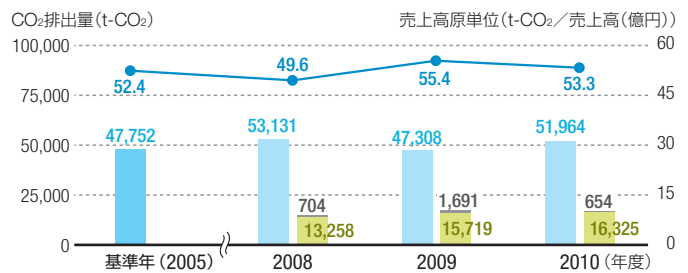
重点テーマ	実施項目	2010年度到達目標	2010年度実績
環境マネジメント体制の強化	① グループ環境管理体制の構築	海外製造拠点の3事業所でISO14001認証を取得	<ul style="list-style-type: none"> ■ KITZ (Thailand) Ltd. ■ 北澤精密機械(昆山)有限公司 ■ 北澤閥門(昆山)有限公司で認証取得
環境負荷の低減	① 総廃棄物量原単位 (t/億円) の削減	売上高原単位 7.8t/億円	7.9t/億円(※)
	② 廃棄物最終処分量原単位 (t/億円) の削減	売上高原単位 0.47t/億円	0.56t/億円(※)
	③ 水資源使用量原単位 (m ³ /億円) の削減	売上高原単位 1,178m ³ /億円	1,122m ³ /億円(※)
	④ PRTR第1種指定化学物質排出量原単位 (t/億円) の削減	売上高原単位 0.25t/億円	0.26t/億円(※)
	⑤ エネルギー消費量原単位 (GJ/億円) の低減	売上高原単位 629GJ/億円	672GJ/億円(※)
	⑥ 地球温暖化ガスCO ₂ 排出量原単位 (t-CO ₂ /億円) の低減	売上高原単位 61.2t-CO ₂ /億円	63.4t-CO ₂ /億円(※)
環境関連法規制対応	① 法規制への対応	改正省エネ法、改正PRTR法、改正廃棄物法の対応	改正省エネ法は対応済み、その他の規制は準備実施
	② アスベスト(資産除去債務への対応)	レベルI~Ⅲの調査、吹付けアスベストの除去	キッツ及び国内外グループ会社調査完了 長坂工場、伊那工場及び研修センターにおいて吹付けアスベスト除去実施

(※) キッツ及び国内グループ会社(営業所は除く)

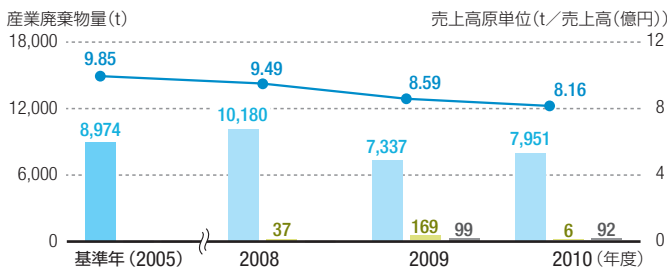
エネルギー消費量の推移



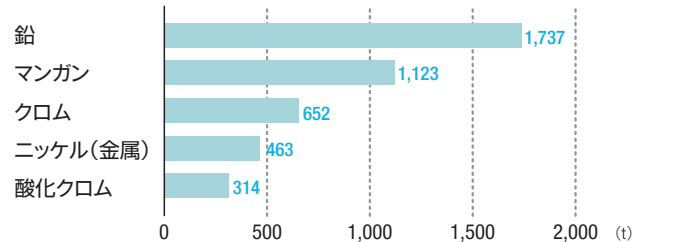
CO₂排出量の推移



産業廃棄物量の推移



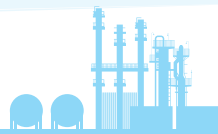
PRTR対象物質使用量(上位5種)



※ 年間取り扱い量1t未満、含有率1%未満のPRTR対象物質も集計しています。

- キッツ及び製造グループ会社(営業所は除く)
- サービスグループ会社(2008年度よりデータを集計)
- キッツ及び製造グループ会社(営業所)(2009年度よりデータを集計)
- 売上高原単位はキッツ及び製造グループ会社(営業所は除く)

事業活動と環境負荷(マテリアルバランス)



キッツグループ環境報告ダイジェスト2011

INPUT



主なエネルギー

	キッツ・製造 グループ会社	(営業所)	サービス グループ会社
●電気			
購入電力 (千kWh)	92,822	656	18,824
太陽光発電 (千kWh)	47		63
●都市ガス (千m ³)	11	0	2,669
●A重油 (kl)	905		436
●LPG (t)	1,735	16	236
●灯油 (kl)	728	22	162
●冷・温水 (GJ)	3,510		1,574



水

	キッツ・製造 グループ会社	(営業所)	サービス グループ会社
●上水 (千m ³)	125	4	268
●地下揚水 (千m ³)	436	0	380



主な原材料

	キッツ・製造 グループ会社
●鉛 (t)	1,737
●ニッケル (t)	462
●マンガン (t)	1,123
●クロム (t)	652
●銅 (t)	36,898
●亜鉛 (t)	19,332

主な副資材

	キッツ・製造 グループ会社
●中子砂 } など (t)	5,450
●鋳物砂	
●塗料、シンナー (t)	134
●油剤 (t)	178

KITZ GROUP



OUTPUT



大気への排出

	キッツ・製造 グループ会社	(営業所)	サービス グループ会社
●CO ₂ (t)	51,964	654	16,325
●ばいじん (t)	4.3		0.2
●NO _x (t)	4.8		11.3
●SO _x (t)	5.0		13.5



廃棄物等排出量

	キッツ・製造 グループ会社	(営業所)	サービス グループ会社
●産業廃棄物 (t)	7,951	6	92
●一般廃棄物 (t)	198	1	322
●有価物 (t)	7,022		77
●最終処分量 (t)	562	0	46



化学物質排出量

(PRTR対象物質)

	キッツ・製造 グループ会社	(営業所)	サービス グループ会社
●大気 (t)	41		
●廃棄物 (t)	252		
●公共水域 (t)	0.1		

環境会計

環境保全コスト (※2)

(単位: 千円)

分類	主な取り組みの内容	設備投資額	費用額
事業エリア内コスト		84,970	490,689
内訳	公害防止コスト	公害防止施設・設備の導入・維持管理	41,218 222,752
	地球環境保全コスト	省エネ型設備・機器の導入	8,523 43,574
	資源循環コスト	廃棄物減量化・リサイクル、外部委託処理費	35,228 224,363
グリーン購入製品 リサイクルコスト	使用済み商品の回収・リサイクル費用	—	22,207
管理活動コスト	ISO・環境測定・環境情報の開示	2,880	74,440
研究開発コスト	鉛フリーなど環境配慮商品の開発	—	105,370
社会活動コスト	緑化活動の推進	—	634
環境損傷コスト	地下水の浄化対策	435	6,997
その他のコスト		—	—
合計		88,285	700,337

項目	内容等	金額
当該期間の設備投資額の総額	環境保全に係る投資額の割合: 5.2%	1,689,016
当該期間の研究開発費の総額	環境保全に係る開発費の割合: 7.0%	1,516,009

※1 集計範囲はキッツ (本社、長坂、伊那)、キッツメタルワークス、キッツマイクロフィルター、東洋バルブ、キッツエスシーティ、三吉バルブ

※2 集計範囲はキッツ (本社、長坂、伊那)、キッツメタルワークス、キッツマイクロフィルター、東洋バルブ、キッツエスシーティ、三吉バルブ、清水合金製作所

環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標 (単位)	前期※1 (2009年度)	当期※2 (2010年度)	前期との差
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量 (GJ)	440,544	498,935	58,391
	PRTR対象物質の投入量 (t)	3,703	4,332	629
	上水投入量 (m ³)	123,869	125,090	1,221
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	地下揚水投入量 (m ³)	476,117	435,898	△40,219
	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	46,408	51,964	5,556
	特定の化学物質排出量・移動量 (t)	252	293	41
	一般廃棄物及び産業廃棄物総排出量 (t)	7,491	8,149	658

環境保全対策に伴う経済効果 (※2)

(単位: 千円)

	効果の内容	金額
収益	主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクルまたは使用済み商品等のリサイクルによる事業収入	423,677
費用節減	省エネルギーによるエネルギー費の節減	△64,875
	リサイクルに伴う費用節減	265,421
	廃棄物減量に伴う費用節減	7,939
合計		632,162

特集：海外における環境マネジメントの強化



キッツグループは、長期経営計画「KITZ Global Vision 2020」を策定し、環境経営の推進を経営基盤強化の主要項目として位置づけています。環境中期計画では、国内外16の製造拠点全ての事業所でISO14001認証を取得することを目標に設定しており、2011年4月までに新たに海外の3拠点が認証を取得しました。計画的な認証取得を進め、グローバルな環境マネジメントの確立に取り組んでいきます。

キッツグループでは、ISO14001を基軸に各事業所で環境目標を設定し、活動を展開するマネジメントシステムを構築しています。今回の認証取得で、海外では合計4社となりました。国内の製造拠点においては2008年度までにISO14001認証の取得を完了しております。

ISO14001 認証取得状況 (国内)

事業所名	認証年月
(株)キッツ長坂工場	1998年 12月
(株)キッツ伊那工場	2000年 1月
(株)キッツメタルワークス	2001年 2月
(株)キッツマイクロフィルター	2001年 3月
東洋バルブ(株)	2001年 12月
(株)清水合金製作所	2004年 7月
(株)キッツエスシーティー	2007年 3月
三吉バルブ(株)	2008年 9月

ISO14001 認証取得状況 (海外)

事業所名	認証年月
①台湾北澤股份有限公司	2000年 11月
② KITZ (Thailand) Ltd.	2010年 12月
③北澤精密機械(昆山)有限公司	2010年 12月
④北澤閥門(昆山)有限公司	2011年 4月



海外グループ会社での環境マネジメント実践事例：

台湾北澤股份有限公司

事業内容：ステンレス鋼製・鋳鋼製バルブ及び継手の製造・販売

ISO14001 認証をベースとした環境マネジメントシステムを導入してから10年以上が経過し、徐々に定量的な成果が出てきました。特に顕著なのが廃棄物の削減です。総務部や生産管理部を中心にゴミの分別や廃棄木材の再利用などに取り組み、2010年度の一般廃棄物量は2007年度と比べ約4割削減することができました。このほか、製造部では電力や切削油などの省エネ・省資源に努め、また品質管理部では分析器のX線使用による放射線外部漏れ確認などの環境保護対策を進めるなど職場ごとに環境活動に取り組んでいます。

近年、台湾において環境に関する法規制が厳しくなっており、当社でも規制への対応を進めています。2009年9月に制定された、騒音管制基準法に対しては、年2回の騒音検査を実施しています。また、2010年に環境教育法が制定され、3か月に1回の頻度で職場の進捗状況を確認する体制を整備するとともに、新入社員を対象とした環境教育の充実に取り組んでいます。こうした新たな法規制によって、環境マネジメントシステムの「適切性」「妥当性」「有効性」の評価は変化します。法遵守を基本方針に掲げ、今後も規制の動向に合わせた環境マネジメントシステムの運用を図っていきます。



環境教育の様子

新規取得グループ会社紹介：

KITZ(Thailand)Ltd.

事業内容：青銅・黄銅製バルブ及びバタフライバルブの製造・販売

ISO14001 認証の取得は、2010年12月に完了しました。現在、電気使用量の対前年度比5%削減、オイル使用量の同5%削減、9割以上のゴミ分別の実施、工場からの排水基準の適合という4つの環境目標を設定しています。これらの環境目標の進捗は、毎月のデータを事務局がとりまとめ、環境委員会で報告しています。排水の改善では新しい排水処理施設の導入、廃棄物削減では切粉に付着した切削油を回収し、リユースするなどの取り組みを進めています。

今後、エネルギー管理委員会を中心とした社内の省エネルギー活動の推進や、従業員への啓蒙活動による廃棄物削減などに取り組み、環境に配慮したやさしい企業を目指していきます。



ISO14001 認証の取得に向けた環境教育の様子

北澤精密機械(昆山)有限公司

事業内容：ステンレス鋼製バルブの製造・販売

ISO14001 認証の取得に向け、2010年6月から総務課を中心としたタスクチームを設置し、環境マネジメントシステムの構築を進めてきました。社内の環境意識の醸成という点では、まず中心となるタスクメンバー自身の意識づけから始めました。週一回の教育会を全員参加で開催し、タスクメンバーが幹部に、幹部から従業員へと徐々に浸透させていきました。

2010年12月にISO14001 認証を取得し、今後当社として力を入れていきたい点は廃棄物の削減です。 casting工程から排出される廃棄砂を回収し、再生砂として使用する取り組みを検討していきます。これらの環境活動を日本人スタッフと現地スタッフが一体となって取り組んでいきます。

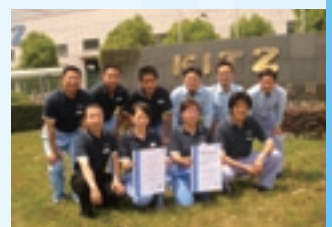


幹部を対象とした環境教育の様子

北澤閥門(昆山)有限公司

事業内容：鋳鋼製バルブの製造・販売

中国においても、環境への意識は高まってきています。今後の当社商品の中国国内への販売を視野に入れ、ISO14001 認証の取得に向けた準備に取り組み、2011年3月に審査を完了しました。最も苦労したのは、環境マネジメントシステム導入の意識づけです。中国では日本のようにきめ細かいゴミの分別習慣がないため、導入当初は分別の教育を実施し専用容器を設置しましたが、なかなか定着しませんでした。ねばり強く啓蒙活動に取り組んだ結果、ゴミの分別のほか、昼食時の消灯などが定着しつつあります。今後の課題はエネルギー消費量の抑制です。中国でも電力不足の影響で計画停電が行われるため、こまめな消灯や効率的な生産ラインの運営などに取り組んでいきます。



担当スタッフによる環境教育の様子

編集方針

キッツグループでは、お客様、お取引先様、株主様、地域の皆様、従業員などのステークホルダーの皆様に向けた情報公開の一環として、環境に対する活動の方針や実績などについて紹介する環境報告書を2006年から発行しています。

掲載情報の対象範囲につきましては、環境報告書の初回発行以降、徐々に拡大しており、今後はグローバルな環境マネジメントの展開のために海外製造拠点へと広がっていきたくと考えています。その一環として、今回は海外拠点におけるISO14001認証の取得について、特集いたしました。

当該冊子に加え、環境データや詳細な取り組みなどについては、幅広い情報を掲載したウェブ版 (<http://www.kitz.co.jp/environment/index.html>) もご用意し、媒体の特性を生かした報告を試みています。今後もステークホルダーの皆様のご参考となる情報をお届けできるよう、内容の一層の充実を図ってまいります。

対象期間: 対象期間は2010年度 (2010年4月1日～2011年3月31日) の実績ですが、一部2010年度以降の情報も記載しています。

環境パフォーマンス情報の収集・報告の方針及び基準: 環境関連法規に準拠し、「キッツグループ環境理念」「キッツグループ環境行動指針」「キッツグループ環境・安全衛生パフォーマンスデータ算定ガイドライン」他環境関連社内規定に基づき記載しています。

参考にしたガイドライン:

- 環境省「環境報告ガイドライン (2007年版)」
- 環境省「環境会計ガイドライン (2005年版)」

発行: 2011年7月

次回発行予定: 2012年7月 (毎年発行していく予定です)

対象範囲: キッツ及び国内グループ会社10社を含んでいます。

報告書内での用語	事業所名	報告書対象範囲			データ未集計	
		製造	営業所	サービス		
キッツグループ 国内グループ	キッツ	キッツ	本社 (千葉営業所を含む)、長坂工場、伊那工場	研修センター、営業13拠点	—	
	製造グループ会社	東洋バルブ株式会社	茅野工場 (本店)	本社、営業10拠点	—	—
		清水合金製作所	彦根工場 (本社)	営業7拠点	—	営業2拠点 (札幌・青森)
		キッツエスシーティー	新田SC工場	本社、営業4拠点	—	—
		三吉バルブ株式会社	川越工場	本社	—	—
		キッツマイクロフィルター	本社工場	—	—	東京営業所・工業フィルター営業所は東洋バルブ本社を含む 大阪営業所はキッツ大阪営業所を含む
	キッツメタルワークス	本社工場 (甲信営業所含む)	関西配送センター (旧京都プラス) 2009年7月より対象	—	関東営業所はキッツ本社を含む 中部営業所はキッツ中部支社を含む 関西営業所はキッツ大阪営業所を含む	
	サービスグループ会社	キッツエンジニアリングサービス	—	—	サービスセンター5 拠点 (京浜、鹿島、名古屋、阪神、徳山)	—
		キッツウェルネス	—	—	15店舗 (綾瀬店、藤沢店、金沢文庫店、幕張店、平塚店、北松戸店、南柏店、茅ヶ崎店、公津の杜店、流山おおたかの森店、吉川店、仙台店、南古谷店、水戸店、日進店) 稲毛海岸 (鍼灸治療院)	須玉店 (受託運営)、 根白石店 (受託運営)
		ホテル紅や	—	—	ホテル、稀石の癒、東部湯の丸、諏訪湖サービスエリア内の売店・レストラン	—
諏訪ガラス工房		—	—	SUWAガラスの里	—	
海外	海外製造・販売拠点	—	—	—	海外8拠点	
	海外仕入・販売拠点	—	—	—	海外2拠点	

算定基準 (2010年度実績):

環境パフォーマンス指標	単位	算定方法
INPUT	GJ	事業活動で消費されるエネルギー量 (GJ) Σ [各エネルギー年間使用量×各単位発熱量]×10 ⁻³
		*出典: 平成21年度 (2009年度) におけるエネルギー需給実績 (確報) (平成23年4月26日公表) 資源エネルギー庁 電気: 3.6MJ / kWh A重油: 39.9MJ / L 灯油: 36.7MJ / L 軽油: 37.9MJ / L LPG: 50.8MJ / kg 都市ガス: 44.8MJ / m ³ ガソリン: 34.6MJ / L
	GJ	キッツ本社ビル (千葉県: 幕張新都心) において、空調利用のために地域冷暖房システムから熱源である冷温水を受け入れている量
原材料投入量	トン	商品を製造するために直接使用する原材料の年間使用量 (t)
水の使用量	m ³	上水及び地下水の年間使用量 (m ³)

OUTPUT	事業活動	二酸化炭素排出量	
		トン	トン
二酸化炭素排出量	事業活動	事業活動で消費されたエネルギーにより排出された二酸化炭素 (t)	
		*地球温暖化対策推進法施行令より 算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧	
		電力 (kg-CO ₂ / kWh)	東京電力: 0.384 関西電力: 0.294 中部電力: 0.474 北海道電力: 0.433 東北電力: 0.468 北陸電力: 0.374 中国電力: 0.628 九州電力: 0.369
		A重油: 2.710kg-CO ₂ / L 灯油: 2.490kg-CO ₂ / L 軽油: 2.580kg-CO ₂ / L	
		LPG: 3.000kg-CO ₂ / kg 都市ガス: 2.230kg-CO ₂ / m ³ 東京・大阪・武州・東部ガス: 2.240kg-CO ₂ / m ³	
		日本海ガス: 2.290kg-CO ₂ / m ³ 冷・温水: 0.057kg-CO ₂ / MJ ガソリン: 2.320kg-CO ₂ / L	
廃棄物	事業活動	ばいじん量 (t) = ばいじん濃度 (g / m ³ N) × 単位時間当たりの乾き排ガス量 (m ³ N / h) × 年間稼働時間 (h / 年) × 10 ⁻⁶	
		SOx (t) = 硫酸酸化物濃度 (ppm) × 単位時間当たりの乾き排ガス量 (m ³ N / h) × 年間稼働時間 (h / 年) × 64/22.4 × 10 ⁻⁹	
		NOx (t) = 窒素酸化物濃度 (ppm) × 単位時間当たりの乾き排ガス量 (m ³ N / h) × 年間稼働時間 (h / 年) × 46/22.4 × 10 ⁻⁹	
最終処分率: 委託した廃棄物量 (トン) × 最終処分率 (%)		※ 一般廃棄物: 環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等 (2009年度実績) について」より引用。産業廃棄物: 中間処理業者から回答の得られた値。	

株式会社 キッツ

株式会社キッツ 環境推進グループ 〒408-8515 山梨県北杜市長坂町長坂上条2040

TEL: 0551-20-4104 FAX: 0551-20-4180 WEBサイト: <http://www.kitz.co.jp/environment/index.html>

最新ロゴデータにさしかえ

